

大友 直人 (おおとも なおと) / 指揮

Naoto Otomo / Conductor

桐朋学園在学中に 22 才で NHK 交響楽団を指揮してデビュー以来、日本の音楽界をリードし続けている日本を代表する指揮者のひとり。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京交響楽団常任指揮者、京都市交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督を歴任。現在東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザー。

東京文化会館の初代音楽監督として東京音楽コンクールの基盤を築く。また、高崎芸術劇場の初代芸術監督を務め、数々の自主制作の企画を成功に導いた。海外オーケストラからも度々客演として招かれ、ハワイ響においては旧ホノルル響時代から 20 年以上にわたり定期的に招かれている。またフィルハーモニア管弦楽団の日本ツアーの指揮者も務めた。幅広いレパートリーでも知られ、その中でも日本を代表する邦人作曲家作品の初演やジェームス・マクミラン作品及びジョン・アダムのオペラ日本初演等は代表的に挙げられる。

小澤征爾、森正、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘らに学ぶ。NHK 交響楽団指揮研究員時代には サヴァリッシュ、ヴァント、ライトナー、プロムシュテット、シュタインらに学び、タンゲルウッドミュージックセンターでは パースタイン、プレヴィン、マルケヴィチからも指導を受けた。大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。

荒井 里桜 (あらいりお) / ヴァイオリン

Rio Arai / Violin

1999年東京都出身。東京藝術大学音楽学部を特待奨学生として在籍したのち、首席卒業。ローザンヌ高等音楽院卒業。

第15回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞。第87回日本音楽コンクールバイオリン部門第1位。第20回ハチャトゥリアン国際コンクール第3位及びシューベルト・インタープリテーション特別賞を受賞。

これまでにアルメニア国立交響楽団、マカオ管弦楽団、ローザンヌ・シンフォニエッタ、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、藝大フィルハーモニア管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、関西フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などと共演。

題名のない音楽会、NHKをはじめ、ラジオやメディアへも多数出演。

2023、2024年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

高崎芸術劇場 T Shot シリーズより、デビュー盤「RIO ARAI in Concert」をリリース。

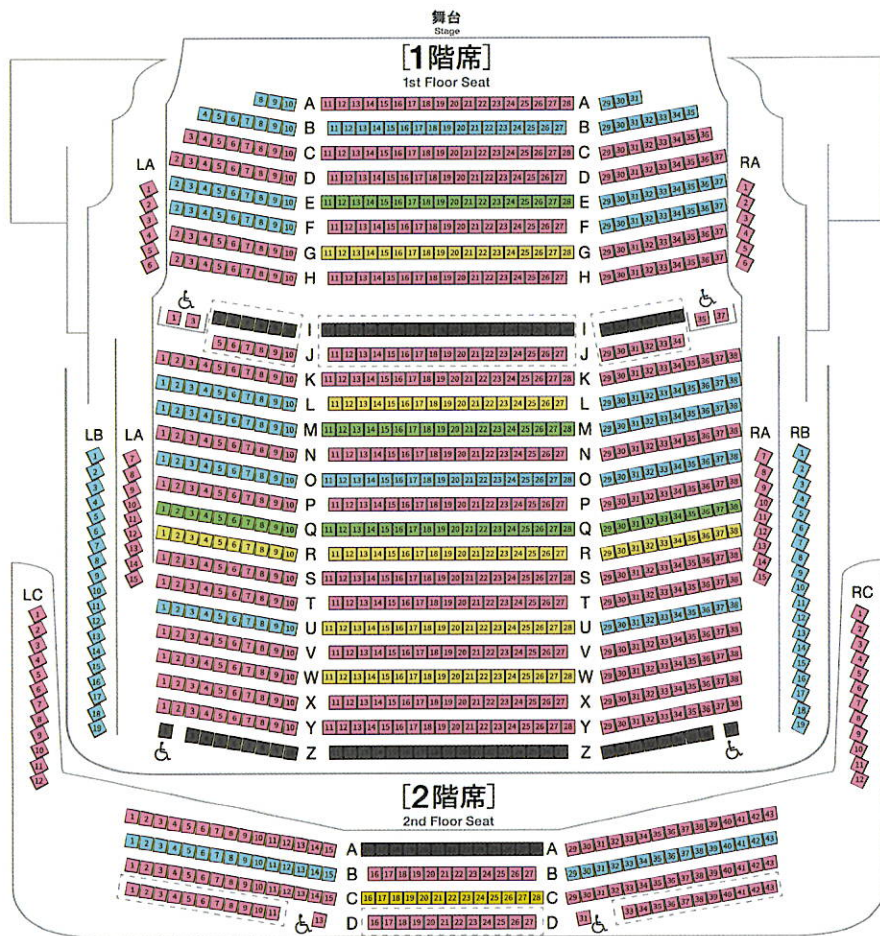
現在の使用楽器は、(株)日本ヴァイオリンより貸与の1780年製「J.Gagliano」。

これまでにジェラルド・ブーレ、永峰高志、澤和樹、山崎貴子、堀正文、玉井菜採、ジャニーヌ・ヤンセンの各氏に師事。現在はエリザベート王妃音楽院においてオーギュスタン・デュメイ氏のもとで学んでいる。

琉球交響楽団 (りゅうきゅうこうきょうがくだん)

Ryukyu Symphony Orchestra

2001年3月「琉球交響楽団設立コンサート」を開催。定期演奏会や小中高等学校での音楽鑑賞会の他、0歳児からのコンサート、琉球芸能とのコラボレーション、沖縄県内離島公演を積極的に行っている。2016年大友直人が音楽監督に就任。2017年、全国共同制作 プッチーニ：歌劇「トスカ」沖縄公演において管弦楽演奏を務め好評を博した。2022年6月には沖縄復帰50周年記念特別公演として東京公演、大阪公演を開催。聴衆とのふれあいを大切に、県民に親しみ愛され、国際色豊かな沖縄県の顔となる交響楽団を目指し活動している。2005年ファーストアルバム「琉球交響楽団」、2020年セカンドアルバム「沖縄交響歳時記」をリリース。第19回宮良長包音楽賞受賞。令和6年度名護市社会教育功労賞受賞。



プレイガイド取扱座席表

那覇文化芸術劇場なはーと大劇場

琉球交響楽団事務局

デパートりうぼう

teket

イープラス

※イープラスでのご購入は座席選択不可。

販売不可